

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第60号 [2012年1月~3月号]

2012
No. 60 青山学院大学
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

特集 学長対談

受け継がれていく、 新生青山学院の潮流

特集 難民を知り、難民と出会う
— 青学で学ぶ難民学生たちの素顔

TOPICS 男子バスケットボール部2年連続4冠(大学日本一)を達成!
第88回東京箱根間往復大学駅伝競走 総合5位

報告・お知らせ 青学オープンカレッジ春期講座
春期休業期間中の窓口案内

誌上公開講座 Aogaku Lecture④
国際平和協力論Ⅱ—変遷する国際紛争—

INFORMATION 安藤孝四郎氏を次期青山学院理事長に選任
2011年度 ペアレンツウィークエンド実施状況報告
2012年度 大学・大学院学費納付について





特集 学長対談

受け継がれていく、 新生青山学院の潮流

2011年12月、伊藤定良教授の4年間の学長任期が終了し、仙波憲一教授に“学長バトン”が渡されました。大学運営のかじ取りを担う学長のあり方は、学生生活に大きく影響してきます。今回は新旧ふたりの学長が、これまでの4年間の本学の歩みを振り返るとともに、来たる4年間を展望して、語り合います。

21世紀にふさわしい大学づくりを目指した4年間

仙波憲一新学長 伊藤学長が就任されてからの4年間で、本学には3つの新学部と2つの新学科が誕生しました。伊藤学長がかねてより掲げてこられた「創造の場、学びの場、出会いの場」としての大学を実現するために邁進されたと感じますが、今振り返られてどのような4年間でしたか。

伊藤定良前学長 まさに全力投球の4年間でした。私の前任である武藤元昭先生が準備を進めてこられ、本学にとって26年ぶ

りの新学部となった総合文化政策学部と社会情報学部、夜間部の伝統を現代的な教育ニーズに転換した経済・経営両学部の新学科、そして文学部から独立する形で誕生した教育人間科学部。これらはすべて、急速に変化を続ける社会の要請に応えるものでした。それに加えて2012年度には、「文化の時代」といわれる21世紀を象徴する新しい人文学教育の試みとして、文学部比較芸術学科を開設します。こうした学部・学科の新設や改編によって、様々な社会的要請に応えることのできる体制が整ってきました。

仙波 教育体制の充実と同時に、もう一つの大きな目標が、就学キャンパス再配置計画の推進でした。現在相模原キャンパスで学んでいる人文・社会科学系学部の1～2年生約7000名を青山キャンパスでの就学に移行するという壮大なプロジェクトの実現に向けて、入念に準備を重ねてこられたと思います。

伊藤 人文・社会科学系の学部が1キャンパスでの4年間一貫教育を行う体制でなくなったのは1982年の厚木キャンパス開学からですが、約30年の時を経て、相模原キャンパスに拠点を置く理工学部、社会情報学部も含めた全ての学部で1キャンパスでの4年間一貫教育が再び実現します。

移行に向けた準備計画も固まり、いよいよ実行に移そうとしたところに東日本大震災が発生しました。この影響で大学17号館の竣工が約3か月遅れ、その後予定していた既存建物・設備の改修に支障が出たことから、就学キャンパスの移行を1年間延期せざるを得ませんでした。この移行計画に期待を持って入学した2011年度の入学生には、特に申し訳ないという気持ちを強く抱いています。

仙波 私も学長就任までは学部長を務めていましたから、延期の決断は本当に心苦しいものでした。その他にも震災の影響はあらゆる面に出てきましたね。本学は幸い

にして4月から授業を始めることができましたが、昨年の入学式・卒業式が中止を余儀なくされたのは大変残念でした。

伊藤 確かに震災によって本学も大きな被害を受けましたが、その一方でこの震災を通して、大学、そして学生が大きく変わりつつあるとも感じています。本学では震災の当日、教職員と学生が協力して約8000名の帰宅困難者を受け入れました。また被災した学生が無事に卒業できるまで継続して援助するための奨学資金を設立しましたし、被災地の方々の手助けをしたいという声が学生から多く寄せられ、その熱意を後押しできるようにボランティア・ステーションを立ち上げました。正課外とはいえ、大学として責任を持って学生を派遣することになるわけです。そのため、災害時の緊急支援に豊富な経験を持つ教員にサポートをお願いし、夏休みを派遣期間にすることで、石巻など被災地6カ所で約400人の

学生が復興事業に携わりました。支援内容も商店街の復興事業から小中学生の学習支援、子どもたちのこころのケアなど多種多様です。積極的に行動する学生たちの姿を見て、本学の素晴らしさを再発見したように思います。

仙波 教職員も現地に泊まり込んで学生とともにボランティア活動に取り組んでくれました。教職員と学生が寝食をともにしながらの活動は、教室を飛び出している学びという点で、新しい可能性を感じることができましたね。

伊藤 12月に石巻市の商店街の方が本学を訪れ、「もう一度生きていこうという勇気を学生さんたちにもらった。そのお礼をしたい」と言ってくださったのが嬉しかったですね。学生たちは、チームを組んで日々の作業を分担して行い、夜には必ず反省会を開いて、より効率的に作業ができるように知恵を絞ってプランを立てたそうです。最

初は頼りないところがあったという学生たちも、その過程でたくましく成長してくれました。まさに本学のスクール・モットーである「地の塩、世の光」の精神を実践してくれたと思っています。

青山・相模原両キャンパスの将来に向けて

仙波 伊藤学長の4年間で本学は大きく変わってきたと実感しています。これからの大学運営にあたっては、継続性・連続性を大切にしていきたいと考えています。学長が変わったからといって大学のすべてが変わっていくことはありません。伊藤学長が進めてきたこと、特に直近の将来課題としては2013年の移行計画ですが、これを引き継いで無事に成功させることが当面の大仕事になります。その上で、伊藤学長が取り組みつつも実現にはもう少し時間が必要だった課題に、しっかりと取り組んで



学長 仙波 憲一

前学長 伊藤 定良

Profile

学長 仙波 憲一

1950年生。青山学院大学経済学部卒業、青山学院大学大学院経済学研究科修士課程修了。経済学修士。
1984年青山学院大学国際政治経済学部専任講師に就任。1993年に同教授となり現在に至る。2003年から2007年まで副学長・青山スタンダード教育機構構長・学校法人青山学院理事、2008年から2011年まで国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長を歴任する。専門は理論経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学。日本経済学会、地域経済学会等に所属。

伊藤 定良

1942年生。
1978年に文学部史学科に就任し、2007年から2011年まで学長を務めた。

いきたいと思います。

伊藤 グローバル化の推進、青山キャンパスの新図書館建設、そして人文・社会科学系学部の学生が移った後の相模原キャンパスのあり方など、2013年以後にも本学が取り組むべき課題は本当にたくさんあります。**仙波** 確かに課題は多いのですが、私は2013年を青山学院大学の新しいスタートの時と思っています。良いキャッチフレーズはまだ浮かびませんが、「新生青山」をしっかりとスタートさせるべく、これから全力を注いでいきます。就学キャンパスの移行については、後は実行あるのみというところまでできていますから、早急に具体化すべきなのは相模原キャンパスの教育体制の再構築と活性化です。

伊藤 相模原キャンパスに引き続き拠点を置く理工学部と社会情報学部は、既に将来の発展に備えた計画を実行し始めています。また、新たな教育研究分野を開拓できるような新学部の設置についても、これまで様々に検討を重ねてきました。仙波学長がその流れを大切にしてくださいとのことなので、安心して任せることができます。**仙波** 新学部の設置にあたっては、ここ数年の本学の発展の流れを受け継ぎ、現代社会の諸問題に総合的に対応できるような人材を育てていくことが求められていくでしょう。そこへさらに、大学での学びをいかにグローバル社会の中で発信し、世界を正しい方向へ導いていくかという視点を付け加えていきたいですね。

今後の相模原キャンパス再編の核となるのが新学部の設置とするならば、青山

キャンパスにおいて「新生青山」を象徴することになっていくのは新図書館の建設です。学内の専門家が中心となって構想をまとめ、現在は基本設計の段階まで進んでいます。実際に建設されるまでしばらく時間がかかりますが、それまでも学習ラウンジを設置するなど、十分な学習環境を整えていきます。

伊藤 私も学生時代は図書館に通い詰めたものですが、大学生活と図書館は切っても切れないものです。本学の場合、蔵書数やデータベースの整備は他大学にも引けを取りませんが、施設的な制約はどうしても解消できない部分があります。私が学長に就任する前からずっと待ち望んできた新図書館の建設がようやく端緒についたので、ほっとしています。

仙波 新図書館も伊藤学長の計画を受け継ぐこととなりますが、現在大学に求められている図書館とは、かつてのように、本を読み勉強に没頭できる「静かな図書館」だけではありません。学生が自由闊達に意見をかわしながら学びあいを創発する「賑やかな図書館」の機能を持たせて学生生活の中心となるような、立派な学習図書館を実現したいですね。

「青山らしさ」をどのように伝えるか

伊藤 私の在任中の課題としては、グローバル化の推進も重要でした。本学はもともと国際的なイメージが強い大学ですし、世界で活躍している先生方、優れた資質を持った学生は数多くいます。しかし留学生

数や協定校数などの数値でみると他大学と比べて少なく、現実とイメージとのギャップが生じています。そこでこの数年で外国拠点事務所の設置や協定校の拡充に取り組んできました。その結果、留学生数は徐々に増えてきています。

仙波 国際社会の中で本学の位置を高めていくために、引き続き様々な取り組みを進めます。しかし一方で、英語を話して外国で活躍することだけがグローバル化ではありません。真のグローバル化とは多様性を認めることです。自分が世界のどこにいても国籍や人種、宗教を超えてお互いを理解し合い、親しく付き合える人材を育てていくこと。それが青山らしいグローバル化だと思います。

伊藤 同感です。日本と異なる文化・歴史を背景に持つ留学生と身近に接することは、自分を問直すための良いきっかけになります。独自性を尊重しながら、お互いに理解し合うことが大切なのです。そして同時代に生きる若者として、世界で起きている問題に目を向け、どうすればいいのか、何を変えればいいのかを、幅広い視野で考えられる人になってもらいたいと思います。

仙波 幅広い視野で物事を見つめるというのは、多様性を理解するための大前提となります。本学ではそのための仕組みとして全学共通教育システム「青山スタンダード」を2003年に導入しました。これまでも高校と大学との違いを体感的に理解する科目やキャリアを考える科目などを積極的に導入してきましたが、2013年以後も「青山スタンダード」の役割は変わることなく続

いていきます。

伊藤 所属する学部学科に関係なく、本学の卒業生として求められる水準の知識と技能を身に付けるというのが「青山スタンダード」の理念ですから、今後も両方のキャンパスに所属する学生に対して同じ構造の学びを提供できるように準備を進めてきました。

仙波 青山・相模原それぞれのキャンパスで4年間を過ごすことになると、どのように「青山らしさ」を身に付けていってもらうかが大きな課題ですね。所属するキャンパスは違っていても「青山学院でこういうことを学んだ」という意識を持てるような仕組みにしていきたい。そのための具体策として、キリスト教関連の科目を現在より充実させたいと考えています。社会貢献活動を通じたサービス・ラーニングなど、他者に共感を覚えることができるような教育は、キリスト教学校である本学ならではのものだと思います。

伊藤 それに関連しますが、学生には本学の歩んできた歴史をもっと知ってほしいで

新副学長紹介

すね。2010年に『青山学院大学五十年史』を出版しましたが、青山学院大学を作り、発展させてきた人々が個性豊かに描写されていて、何度読み返しても感銘を受けます。「青山学院はどのような先達を作りあげてきたのか」ということを学ぶと、自分の立ち位置がよくわかってきます。

仙波 本当にその通りだと思います。青山スタンダード科目として開講されている「青山学院大学の歴史」の授業は非常に多くの学生が受講してくれていますが、なかなか利用できる教材がないといいます。『五十年史』のダイジェスト版を作ってテキストにするのもいいかもしれませんね。それから、本学の所蔵している歴史資料を実際に目で見ることでできる資料館も作りたと思っています。

伊藤 私もいつかは実現したいと考え、折りにふれて資料館の必要性を訴えてきました。1870年代にアメリカから派遣された宣教師たちが創設した学校を源流とする本学には、実に貴重な資料がたくさん残されています。一つの学校の歴史というだけで

なく、近代日本の歩みを象徴するようなものが数多くあるのです。資料を保存し、閲覧できる資料館の実現を強く願っています。**仙波** 数年前までは、青山キャンパスの間島記念館に資料が閲覧できるスペースがありました。青山キャンパスの学生数が増えるため難しい点もあるでしょうが、やはり学校を象徴するような建築物にそのような施設を入れることが望ましいですね。卒業後の拠り所にもなりますし、そういったものに触れられれば学生の大学への帰属意識は高まっていくはずですよ。

大学はまずもって学生のためにあるのですから、学生の声で変わっていく部分も大きいのです。ボランティア・ステーションも学生の熱意と行動がなければ設立されることはありませんでした。より多くの学生に、大学に“参加”しているのだという意識を持ってもらえれば、青山学院大学をより良い大学へと変えていける。そういう気持ちを持って、これからの4年間を学生とともに歩んでいきます。



副学長 長谷川 信
(学務及び学生担当)

1951年生。東京大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了。経済学修士。1994年に経営学部に着任し、1999年から2003年まで経営学部長・経営学研究科長、2007年から2011年まで副学長・青山スタンダード教育機構構成員・学校法人青山学院理事。専門は日本経営史。

2013年の就学キャンパス再配置は、青山・相模原両キャンパスに大きな変革をもたらします。青山キャンパスで約7000名増える学生に対応する環境を整える一方で、相模原キャンパスでは新設学部構想を含めて新たな教育体制を構築します。また、学部教育をさらに発展させるとともに大学院教育との連携を図り、本学の教育システムの一層のレベルアップを目指します。



副学長 平澤 典男
(広報及び将来構想・第二部担当)

1950年生。一橋大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。経済学修士。1980年に経済学部に着任し、2006年から2010年まで経済学部長・経済学研究科長。専門は公共経済学。

将来構想担当としての直近の課題は、就学キャンパス移行を成功させることです。先輩と後輩が繋がり、教養教育と専門教育が繋がり、正課教育と正課外教育が繋がる場所に4年間一貫教育の真の狙いがあります。広報担当としては、そのような教育の進化、そしてボランティア活動や文武両道で素晴らしい成績を残している学友会の活躍など、「青学生」の今の姿をしっかりと発信していきます。



特集 難民を知り、難民と出会う—青学で学ぶ 難民学生たちの素顔

現在、世界には武力紛争や人権侵害などによって故郷を追われた難民が多数存在しており、日本でも多くの難民が生活しています。厳しい環境下での生活を強いられている難民の方々は、経済的事情や母国の出身校の証明書が得られないなどの理由により、中等・高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。そこでキリスト教信仰を教育の理念とする青山学院大学では、難民支援・国際協力の観点から、

言葉を学ぶことが、人の力になる

ネイジー・ティンウィンさん
文学部英米文学科2年

ミャンマーから難民として日本に来たのは8歳の時です。その時には日本語はまったく話せませんでしたが、日本語を勉強するのはとても楽しく、大変だと思ったことはありませんでした。いつの間にか両親より上手になっていたの、難民仲間のリーダー的存在であった父の手伝いとして、中学生の頃から通訳のようなことをしていました。その経験から、言葉の壁を乗り越えることがいかに大変なのか、そして言葉を学ぶことで人の力になれるのだ、ということを実感しました。

両親ともに教育熱心ではありましたが、やはり大学への進学は経済的に難しい状況でした。ですから難民高等教育プログラムで青山学院大学に入学できたことは本当に嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいです。高校も英語コースを選んだ私にとって、「英語の青山」はずっと憧れの大学でした。

英米文学科の授業はレベルが高くてとても難しいのですが、この2年間で英語の力はとても向上し、今では映画も字幕なしで楽しめるようになりました。特に興味を持っているのは、通訳の基礎技術を学ぶ授業です。話された内容を別の言語に正確に変換して伝えるにはどの部分に注意して聞いていけばいいのかなど、これまで意識していなかったことを学びました。

いつの日か母国ミャンマーにもう一度行きたいという希望は持っています。現地に残っている祖母に会いたいし、改めて自分に向き合う機会になるのではないかと考えています。でも私にとって日本は、これからもずっと住ん



でいたい国です。日本が好きだから、日本と外国の架け橋になってこれまでの恩返しをしたい。子どもの頃から話せるビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語に、日本語と英語を組み合わせて、多言語の通訳ができるようになりたいし、また、日本に住みながらも日本語が十分に話せない人たちに日本語を教える仕事が出来ればと思っています。

—難民の現状とはどのようなものでしょうか。

世界には、UNHCRの支援対象となっている難民および難民のような状態におかれている人が約3392万人以上います。そして日本の政府は、1982年に発効した「難民の地位に関する条約(難民条約)」に基づく条約難民を約2000人、人道的配慮から在留許可を得て政府の保護を受けている難民を約1万1000人、合わせて約1万3000人の難民を受

け入れています。

難民とは「自らの意思に関係なく、紛争や迫害によって生命が危険にさらされ、やむを得ず母国を逃れてきた人々」です。自分の意思で外国に移る移民や仕事をするために外国へ行く人とは、状況がまったく異なっていることを、まず理解しなくてはなりません。

また、テレビなどでは痩せほそった子どもたちの映像が多く流されるために、難民とい

うとそのようなイメージでとらえられがちですが、実際には教養が高く、豊かな生活をしていた人々が、政治や宗教的な理由で難民となるケースも少なくありません。母国でジャーナリストや医師など高度な専門職業人として活躍していたのに、難民になった人々がたくさんいます。

—UNHCRの組織と活動について教えてください。

第二次大戦後のヨーロッパで発生した多数の難民の救済を目的に、1951年に活動を開始した国連組織の一つです。難民受け入れの主体は条約に加入している各国政府であり、UNHCRは政府のパートナーとして条約の実施と難民の保護を行う上でのアドバイザー的役割を果たしています。ただし、難民条約に加盟していなかったり、国内法が整っていない国では、主体的に国際社会の保護を提供している場合もあります。日本ではベトナム戦争などによって発生したインドシナ難民の救済・支援をきっかけに、日本政府が受け入れに積極的になりました。緒方貞子さんが第8代国連難民高等弁務官に就任したことで(在任1990~2000年)、UNHCRも



宮澤 哲氏 UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)駐日事務所 法務アソシエイト

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)駐日事務所との協定を締結し、毎年1名の難民を正規学生として受け入れています。今回は、将来の夢に向かって意欲的に勉学に取り組んでいるカディザ・ベゴムさんとネイジー・ティンウィンさん、そしてUNHCR駐日事務所難民高等教育プログラムを担当されている宮澤哲氏にお話を伺いました。

大学で学んだその先に、大きな未来が開かれる

カディザ・ベゴムさん
総合文化政策学部総合文化政策学科3年

私はロヒンギャ族というミャンマーとバングラデシュの国境沿いに居住するイスラム系少数民族の出身です。父は医師、母も裕福な家庭の出身なのですが、宗教及び民族上の理由で、安心して住める状況ではありませんでした。バングラデシュの高校を卒業した後、既に日本で難民認定を受けていた主人と結婚し、2006年に来日しました。

まずは日本語を覚えるのが先決。日本政府の実施する定住支援プログラムを6カ月受講して生活に必要な知識を身につけた後は、日本語学校に2年間通いました。大学へ進学したいとは思っていたのですが、経済的には主人に頼りきりだったので諦めかけていました。青山学院大学で学べるチャンスがあると知り、ここでチャレンジしないと必ず後悔すると考え、志願を決意しました。

大学に入る前と入った後とは、人生が

180度転換したと思います。子どもの頃からずっと、難民というだけで周囲から変な目でみられることもありましたが、自分の国がないということを辛く思ってきていたのですが、「これからは周りの日本人学生と同じ立場で学ぶことができる、そして勉強すればその先には大きな未来が開かれる」、そう考えると、とても嬉しくなって、入学式では涙があふれてきて止まりませんでした。

大学の講義は、日本語学校の授業と比べて先生の話す速度も早いし、大変です。しかしどんなに大変でも、このプログラムに志願して合格が叶わなかった人たちの分まで頑張ろうと自分に言い聞かせてきました。周囲の協力のおかげで、いまではちゃんと内容

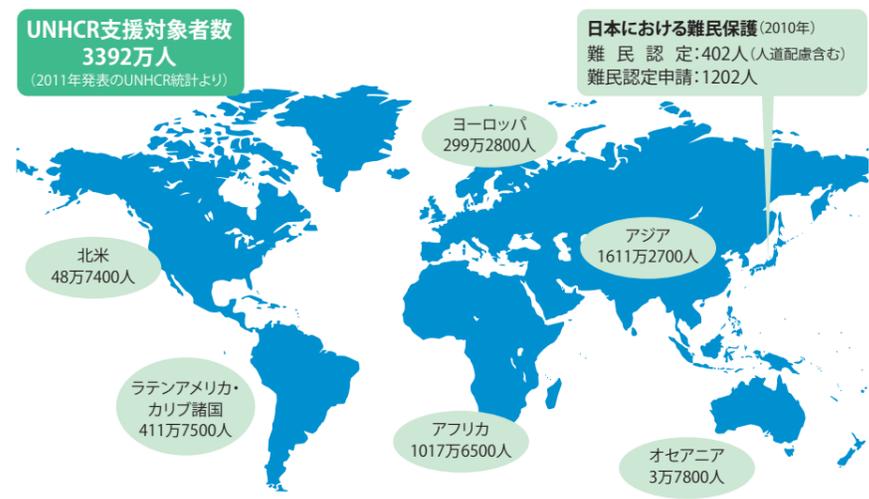


を理解できるようになりましたが、例えばレポートの書き方支援制度などがあれば、なお良いと思いました。

総合文化政策学部の学びはとても幅広いのですが、いまは難民や民族のために役に立つことに的を絞り、将来につながる科目を選びながら学んでいます。特に途上国の経済発展をしっかり勉強して難民・貧困問題に貢献し、世界中の難民たちに笑顔をお届けするような人間になりたいです。

に、難民という背景を持ちながら社会に高い貢献をした人たちは数多くいます。日本で高等教育を受ける機会を得た難民学生には、専門的知識や資格を身につけ、日本で活躍し社会に貢献できるようになっていただきたい。将来的にはその中から、世界の難民救済や平和活動のためのリーダーがでてきてく

れるということも期待しています。青山学院大学の皆さんには、もし難民学生とクラスメイトになったら、できる範囲でサポートしていただきたいのと同時に、機会があれば彼らの話に耳を傾けてください。過酷な経験をしながらも、高い学習意欲を持つ彼らから学ぶことは、非常に多いと思います。



男子バスケットボール部2年連続 4冠(大学日本一)を達成!



男子バスケットボール部が、2010年度に続き「関東大学バスケットボール選手権(5月)」「同新人戦(5~6月)」「同リーグ戦(9月)」の関東3大会と、「全日本大学バスケットボール選手権大会(11月)」のすべてにおいて優勝し、大学バスケットボール史上初の2年連続4冠の快挙を達成しました。

主要公式4大会の全33試合を通じて敗れたのは1試合のみ。選手数わずか20名、学生スタッフ6名ながら、少数精鋭で、その実力は他大学の追従を許しません。もちろん、その土台には、大学スポーツ界で最も厳しいとも評される練習・トレーニングと、選手同士の堅い信頼に裏打ちされた巧みなチームプレー、そしてOBや選手の家族をはじめとした周囲の親身なサポートがあります。プロリーグ[JBL]にも数多くの選手を輩出する本学バスケットボール部の強さの秘密を、伊藤俊主将と、全日本大学選手権でMVPに選出された辻直人選手に聞きました。



主将 伊藤 俊君
総合文化政策学部総合文化政策学科4年
JBL日立サンロッカーズ 内定

3年の時までは先輩についていけばいいという状況でしたが、今年度は最上級生で、しかも主将を務めることに。秋のリーグ戦以降は故障続きで、責任の重圧に苦しんだ時もあっただけに、このような結果を残せたのは本望です。全日本大学選手権の決勝では途中で逆転された場面もありましたが、身体の動きは悪くないし、気持ちも相手を上回っている。最後は勝つに決まっていると不思議なくらいに楽観的でした。

入部してのころは先輩の凄さを目の当たりにして、とてもあのレベルにはついていけないと思いました。しかしそのようなハイレベルな環境こそが、自分たちを大きく成長させてくれたと思います。努力を続ければ年々自分が成長していることを実感でき、それが自信につながっていきました。



辻 直人君
経営学部経営学科4年
JBL東芝ブレイブサンダース 内定

全日本選手権の決勝では、4年生全員が試合に出場したこともあって、優勝を確信した時の喜びは格別でした。MVPは優勝チームの最上級生が慣例的に選ばれるものだから、チームとして表彰されたと思っています。

青学のバスケ部は伝統的に文武両道をしっかりと守っていて、学業と部活動との両立は必須。半期ごとに成績表を監督に提出することになっていて、勉強をおろそかにしていると監督から怒られます。そして強い選手になるにはオンとオフの切り替えが大切。青山学院に憧れて入部した能力の高い選手が、長谷川監督の情熱的かつ緻密な指導を受けて、毎年着実に成長できているところに青学バスケの強さの理由があります。



監督 長谷川 健志

2年連続の4冠達成となれば、史上初のことで、それなりにプレッシャーはありました。選手たちには「優勝を意識するより、最後までチームが成長し続けることを目指そう」と伝えました。彼らはその言葉をしっかりと受け止めてくれ、試合ごとに強くなり、結果として4冠を達成できました。1年の長い闘いを勝ち抜くには技術だけでなく、心が成長して忍耐力、協調性、そして感謝の気持ちを持つことが大切です。身体も頭もとことん使うハードな練習を黙々とこなしてきた選手たちだからこそ、勝ち取ることができた栄光です。

2011年4冠までの軌跡

第60回 関東大学選手権大会

●2011年5月4日~5月15日	初戦	5月10日(火)	○103-78	東洋大学
●107校参加	2戦目	5月11日(水)	○94-56	法政大学
●トーナメント形式	3戦目	5月13日(金)	○94-61	専修大学
	4戦目	5月14日(土)	○82-62	東海大学
	決勝	5月15日(日)	○89-67	拓殖大学

最優秀選手賞	辻 直人(4年)
優秀選手賞	比江島 慎(3年) 永吉 佑也(2年)

第51回 関東大学新人戦

●2011年5月28日~6月12日	初戦	6月8日(水)	○99-48	明治学院大学
●40校参加	2戦目	6月9日(木)	○95-52	早稲田大学
●トーナメント形式	3戦目	6月10日(金)	○66-49	明治大学
	4戦目	6月11日(土)	○101-69	筑波大学
	決勝	6月12日(日)	○80-65	白鷲大学

優秀選手賞	島山 俊樹(2年)
新人王	張本 天傑(2年) 野本 建吾(1年)

第87回 関東大学リーグ戦

●2011年9月3日~10月30日	9月3日(土)	○84-67	早稲田大学
●10校参加	9月4日(日)	○87-66	大東文化大学
●リーグ戦	9月10日(土)	○90-72	筑波大学
	9月11日(日)	○73-52	明治大学
	9月17日(土)	○84-61	専修大学
	9月18日(日)	○82-80	拓殖大学
	9月24日(土)	○73-63	日本大学
	9月25日(日)	●67-70	東海大学
	10月1日(土)	○106-79	慶應義塾大学
	10月2日(日)	○93-71	早稲田大学
	10月8日(土)	○90-50	大東文化大学



10月9日(日)	○80-66	筑波大学
10月15日(土)	○86-54	明治大学
10月16日(日)	○86-74	専修大学
10月22日(土)	○97-79	拓殖大学
10月23日(日)	○85-74	日本大学
10月29日(土)	○67-63	東海大学
10月30日(日)	○89-67	慶應義塾大学

最優秀選手賞	辻 直人(4年)
優秀選手賞	比江島 慎(3年) 永吉 佑也(2年)

第63回 全日本大学選手権大会

●2011年11月21日~11月27日	初戦	11月21日(月)	○88-41	同志社大学
●32校参加	2戦目	11月24日(木)	○90-59	白鷲大学
●トーナメント形式	3戦目	11月25日(金)	○89-73	中央大学
	4戦目	11月26日(土)	○85-59	天理大学
	決勝	11月27日(日)	○77-66	東海大学

最優秀選手賞	辻 直人(4年)
優秀選手賞	比江島 慎(3年) 永吉 佑也(2年)
ディフェンス王	島山 俊樹(2年)

第88回東京箱根間往復大学駅伝競走



総合5位
11時間08分46秒

2012年1月2日(月)・3日(火)、第88回箱根駅伝が行われ、陸上競技部が総合5位の成績でゴールしました。今大会は、新記録がいくつも生まれたハイレベルなレースでした。青山学院大学は昨年に記録した総合タイムを5分以上短縮し、第44回(1968年)大会の総合7位を上回る過去最高の順位を獲得。花の2区では、出岐雄大君が日本人歴代4位のタイムで走りきり、青山学院大学史上初の箱根駅伝区間賞を獲った快走もありました。青山学院大学全体が大きな感動に包まれた2日間をもう一度振り返ります。

監督 原 晋

今年度のチームが発足して以来、選手たちは総合3位を目標に掲げてきました。私自身は総合5位という結果は、想定していた中で最高の成績だと思っています。選手たちはいつも以上の力を発揮し、本当によくやってくれました。これも、寮生活を中心とした日々の鍛錬の中で、一人ひとりが目的意識を弛まず維持してきた成果だと思います。来年は、皆さまのご恩に少しでも報いられるよう、さらに上位を狙います。どうか変わらぬご声援をよろしく願っています。



選手の努力と皆さまのご支援が
過去最高の総合5位という結果につながりました



1区 大手町～鶴見 (21.4km)

佐藤 研人 (総合文化政策学部1年)
総合12位 (区間12位) 1時間03分30秒

ライバルとの駆け引きがポイントとなる1区を任されたのは、今シーズン出雲駅伝と全日本駅伝で経験を積んだ佐藤君。序盤から飛び出した早稲田大学に日本体育大学が追隨する展開の中、佐藤君は3位グループにしっかりとついていきます。後半のスパート勝負ではやや後方に下がりましたが、最後まで粘りの走りをみせ、トップと1分27秒差でタスキをつなぎました。佐藤君「目標だったトップとの差1分以内には及びませんが、自分なりに納得のいく走りではできました。来年も同じ区間に挑戦し、「1区のスペシャリスト」と呼ばれるような走りをしていきたいです」



2区 鶴見～戸塚 (23.2km)

出岐 雄大 (社会情報学部3年)
総合3位 (区間1位) 1時間07分26秒

全日本大学駅伝で区間賞を獲得し、今シーズン波に乗る出岐君は、各大学のエースが集う花の2区で歴史的な偉業を達成しました。タスキを12度で受け取る、力強くピッチを刻み猛追を開始。昨年2区で区間賞を獲得した東海大学の村澤明伸選手とのデッドヒートを繰り広げながら次々とライバルを追い抜きます。15km過ぎに村澤選手を振り切ると、優勝候補の駒澤大学をもかわし、圧巻の9人抜きを達成。日本人歴代4位のタイムで、青山学院大学初の箱根駅伝区間賞を獲得しました。出岐君「目標の総合3位には及びませんが、総合5位は今後につながる結果だと思います。来年は総合優勝を目指しますので、応援をよろしく願います」



3区 戸塚～平塚 (21.5km)

福田 雄大 (社会情報学部2年)
総合3位 (区間13位) 1時間04分06秒

昨年1区で好走し2度目の箱根路に挑む福田君は、出岐君がつくった流れをしっかりと受け継ぎます。3区特有の強い向かい風が吹く中、上位2校との差は広がりますが、駒澤大学に一度追いつかれながらも再び突き放す粘りをみせ3位を死守。実力のある選手が並ぶ区間で、見事に役割を果たしました。福田君「タスキを受けた順位はキープできましたが、個人の区間順位に対してはくやしい思いがあります。もっと力をつけて来年はチームの優勝に貢献したいです」



4区 平塚～小田原 (18.5km)

遠藤 正人 (経営学部2年)
総合7位 (区間9位) 56分22秒

山登りにつながる4区を任されたのは、初の箱根路に挑む遠藤君。明治大学、駒澤大学、城西大学に先行を許し順位を3つ落としてしまいましたが、追いつかれても力の限りついていく気持ちのこもった走りで僅差をキープ。中央大学とほぼ同着の7位でタスキをつなぎます。遠藤君「順位は落としてしまいましたが、区間9位の走りでもとめられました。優勝を狙うため、来年に向けてしっかりとレベルアップしていきたいです」



5区 小田原～箱根 (23.4km)

小嶺 篤志 (法学部3年)
総合7位 (区間11位) 1時間22分34秒

一昨年以来の山登りに臨む小嶺君は、期待通りの安定した走りをみせます。東海大学に追い抜かれ、中央大学を抜き去り、山梨学院大学に追い抜かれる……といった目まぐるしく順位が変わる展開の中、小嶺君はしっかりと自分のペースを維持。ラストは東海大学を抜き返し、7位で往路をフィニッシュしました。小嶺君「個人としては納得のいく記録を出せませんが、沿道に並んだグリーンの旗に勇気づけられ、厳しい山登りを乗り切ることができました。温かい応援ありがとうございます」

往路
大手町～箱根・芦ノ湖
5時間33分58秒
往路7位



復路
箱根・芦ノ湖～大手町
5時間34分48秒
復路7位



2区・区間賞
社会情報学部3年
出岐 雄大君

みんなの力でつかった総合5位という結果は本当にうれしいです。区間賞は、最有力候補だった東海大学の村澤選手を振り切れたときに、「いけるかもしれない」と思いました。エース区間で勝てたことは、大きな自信になります。私たちの学年は、1年生のときから「自分たちが4年生になったときに総合優勝しよう」と話していました。来年はチーム一丸となって、最終目標の実現を目指します。個人としては、2区で1時間06分台を狙いたいと思います。



10区 鶴見～大手町 (23.1km)

大谷 遼太郎 (国際政治経済学部3年)
総合5位 (区間7位) 1時間12分21秒

最高順位の更新が現実としてみえてきた10区。アンカーの大谷君は、9人の汗とチームの想いが染みこんだタスキを受け、懸命に大手町を目指します。一時は城西大学に1分以内に迫られますが、意地の走りで再び突き放します。最後は復路繰り上げスタートの順天堂大学と中央大学の追走をスパートで振り切り、笑顔でフィニッシュ。大谷君がユニフォームの校名を指さしながらゴールテープをきった瞬間、44年振りの最高順位更新となる総合5位が確定しました。大谷君「ゴールで「青山学院」をアピールするのは、付き添いしてくれた高橋が考えてくれました(笑)。途中きつかったのですが、応援のおかげで走りることができました」



9区 戸塚～鶴見 (23.2km)

横山 拓也 (総合文化政策学部3年)
総合5位 (区間4位) 1時間10分59秒

復路のエース区間9区に挑むのは、今シーズン着実に調子を上げてきた横山君。本人が「150%の力が出せた」と語るレースは、勢いがそのまま出た会心の走りとなりました。出だしから積極性をみせスピードに乗ると、9km付近で長らく前を走っていた城西大学を捉え5位に躍り出ます。そのまま鶴見中継所まで安定したペースを維持し、区間4位の好走でアンカーの大谷君にタスキを託しました。横山君「今回の記録には自分自身で驚いています。これも沿道の皆さんの声援を力に変えることができたからこそだと思います。今後は優勝という新たな目標に向け、しっかりと力をつけていきたいです」



8区 平塚～戸塚 (21.5km)

井上 尚樹 (総合文化政策学部2年)
総合6位 (区間7位) 1時間06分30秒

原監督が「もっとも心配」と評していた8区の井上君ですが、それを完全に払拭する活躍でした。6.9km地点の茅ヶ崎までは区間14位とややスロースタートだったものの、中盤から徐々にペースアップ。遊行寺坂で一度先行を許した中央大学をかわすなど抜群の粘りをみせ、区間7位の力走でタスキをつなぎました。井上君「沿道に掲げられた青山学院の旗が多くて本当に驚きました。温かい声援を送ってくれた皆さんに心から感謝しています」



7区 小田原～平塚 (21.3km)

川村 駿吾 (法学部4年)
総合6位 (区間11位) 1時間05分09秒

昨年と同じ7区を任された主将の川村君は、最上級生の意地をみせつけるレースでチームの勢いをしっかりとつなぎます。復路を繰り上げスタートした東京農業大学に抜かれたものの、総合タイムでは上回るため順位に変動はなく、終始6位をキープ。経験を生かした粘りの走りで自分のペースを守り、過去の最高順位更新をぐっと引き寄せました。川村君「前回自分が走った記録を3秒更新しました(笑)。個人的にはやや不甲斐なかったのですが、総合順位には納得しています。来年は、頼もしい後輩たちがさらに上位にいてくれると信じています」



6区 箱根～小田原 (20.8km)

竹内 一輝 (文学部2年)
総合6位 (区間6位) 59分49秒

山下りの6区を託されたのは、チームきってのスピードランナー竹内君。しなやかなフォームの走りで、復路に勢いをもたらす見事な箱根デビューを飾りました。芦ノ湯までの5.1kmを区間1位のタイムで入ると、その後も順調なレースを披露。区間6位の走りで順位を一つ上げ、6位でタスキリレーしました。竹内君「原監督から言われていた区間5位以内に届かなかったのはくやしい。来年も6区でリベンジして、「山下りの神」と呼ばれるような走りをしていきたいです」

青山スポーツ冬の陣 応援ありがとうございました!

本誌第59号(2011年10月発行)に掲載した団体を中心に、昨年10月から12月にかけての青山スポーツの活躍を各部からお伝えします。

居合道部

全日本学生居合道大会 団体ベスト8、個人ベスト8 玉光 弘和
関東甲信越居合道大会 敢闘賞 2段2名、初段4名、段外1名 計7名入賞

今年度は東日本3連覇や全日本においても団体ベスト8など青山学院大学の団体の強さをみせることができた一年だったと思います。

また、個人においても主将の玉光の東日本優勝を始め、新人戦では準優勝、第3位、ベスト8に一人ずつ入賞することができ居合道部の選手層の厚さをみせることができました。

来年度への抱負としては、団体においても個人においても東日本連覇を目指し、全日本大会での優勝を狙えるような部活にしていきたいと考えています。一年間応援ありがとうございました。来年度も応援よろしくお祈りします!



バレーボール部(男子)

秋季関東大学バレーボールリーグ戦 男子2部6位
全日本バレーボール大学男子選手権大会 ベスト32

日ごろより我々男子バレーボール部を応援していただきありがとうございます。昨年は震災で思ったような練習ができず、秋季リーグ戦では6位という悔しい結果に終わってしまいました。しかし、全日本バレーボール大学男子選手権大会では、ベスト32という好成績を残すことができました。来年度は自分たちの持ち味を生かし、新たなチーム作りに取り組んでいきたい



と思います。そして、1部昇格を目指し、日々努力していきます。今年も選手並びにスタッフともども、よりいっそうの向上心を持ち邁進していきます。どうか応援のほどよろしくお祈りします。

バレーボール部(女子)

秋季関東大学バレーボールリーグ戦 女子1部5位
全日本バレーボール大学女子選手権大会 ベスト32

たくさんの方々に応援していただきながらも、今年は秋季リーグ5位、全日本インカベスト32と思うような結果が残せず大変くやしい思いをしました。個人個人の厳しさ、チーム力が足りなかったことがこの結果に結び付いてしまったと反省しています。

来年度はこのくやしさを絶対に無駄にせず、計画的にトレーニングを積み、心身を鍛えなおし、各々がさらに高い意識で練習に励みたいと思っております。応援して下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、青学伝統の粘り強いバレーで5冠を目指して頑張ります。ぜひ、応援のほどよろしくお祈り致します。



サッカー部

関東大学サッカーリーグ戦 1部11位(12チーム中)

昨シーズンは、当時のメンバーとしては初の1部リーグでの戦いとなりました。2部リーグとは格の違う強豪校相手に自分たちの力が出し切れず、12チーム中11位という結果に終わってしまいました。

ただ、思うような結果が出ずに苦しみながらも、チームとして自分達と向き合い、改善策を考え、それに取り組んだことは、今後の糧となるとても良い経験になったと思います。

来シーズンは、「2部リーグ優勝」を目標に、チーム丸となって、ショートパスを主体とした上手さ、そして1部リーグでも通用する強さ、泥臭さを兼ね備えたチームを目指し、精進していきたいと思っております。



ラグビー部

関東大学対抗戦 Aグループ6位
関東大学ジュニア選手権大会 カテゴリー4位



私達ラグビー部は、昨年の関東大学ラグビー対抗戦Aグループに出場し6位で終えました。2010年に入替戦に勝利し、在学生の中で誰もAグループの経験者がいない中でのスタートでした。初戦の相手は昨年度の対抗戦で優勝した早稲田大学でした。その試合で完敗を喫いAグループの厳しさを味わいました。その後は帝京、明治、慶応、筑波に破れたものの、成蹊、日本から辛うじて勝利をもぎとり、入替戦を回避することができました。

今年は、昨年目標に掲げ果たせなかった大学選手権に出場することはもちろんのこと、その先ベスト4を目指して取り組んでいきます。

硬式野球部

東都大学野球秋季リーグ戦 1部2位

昨年9月4日から始まりました秋季リーグ戦にて、私たち硬式野球部は最終戦で亜細亜大学と同率1位となり、優勝決定戦を行うことができました。その際には大学の協力もあり、教職員、在学生など、たくさんの大学関係者が駆け



つけてくださり、今までに無いほどのご声援の中で野球をすることができました。試合は敗れてしまい2位に終わりましたが、皆様のご声援を胸に、来シーズンでは優勝、そして日本一となるよう、日々精進していきたいと思っております。

試合は火、水曜日の平日ではありますが、皆様のご声援が私たち野球部の力となりますので、お時間がございましたら是非神宮球場まで足を運んでくださると幸いです。

写真提供：卒業アルバム委員会、新聞編集委員会、ラグビー部

「ネパール・カトマンズ市を5年できれいに!」クリーンアップ・プロジェクトを実施

2011年12月24日(土)から本年1月4日(水)まで、本学の学生団体「GLEP Youth」に所属する学生9名が、ネパール連邦民主共和国でクリーンアップ・プロジェクトを実施しました。

「GLEP Youth」は、2010年に大学院に設置されたGLEP(グローバル・エキスパート・プログラム)の理念に共感した学部生が中心となって設立した団体です。将来、国際貢献・国際協力に携わってみたいと考えている学生が集まっており、国内外のボランティア活動に積極的に関わっています。

ネパールはヒマラヤ山脈登山の玄関口であり、世界中から多くの観光客を受け入れていますが、経済的には最貧国の一つとして位置づけられます。そのため社会的インフラが未整備で、街中にはゴミが散乱し、人々の衛生意識は必ずしも高くありません。本プロジェクトでは、同国の首都カトマンズを「5年できれいに!」を合言葉として市街地周辺の環境整備事業に取り組んでおり、現地へ赴くのは今回が2回目となります。

行程の前半は、主に現地の高校生・大学生200名以上と協働で学校周辺地域の清掃を行いました。カトマンズ市には先進各国からのODA(政府開発援助)によって、立派なゴミ集積所や収集車が設置されていますが、設備や技術だけでは人々の衛生意識は向

上しません。そこで今回は単にゴミを片付けるだけではなく、作業と並行して通行人やお店の方々にゴミの分別の必要性等を説明しながら作業を行いました。この活動の後、ネパールの大学生と本学の学生で「ユース・サミット」を開催し、「どのようにすればカトマンズをきれいにでき、その状態をいかに維持できるのか」について、英語で意見をかわしました。

後半には市街地から離れた山間部の村にある小学校で実施された学校保健プロジェクト等に参加しました。生徒数1200名の大きな学校ですが、低学年の子供たちに手の洗い方、歯の磨き方などの指導を行いました。ネパール語に堪能な学生はいなかったため、言葉での交流は限られたものでしたが、歯の磨き方のデモンストレーションを行い、基本的な衛生行動を身につけてもらいました。

このような活動を現地の学生たちと共に行うことで、若い世代を中心とした多くの人々に「自分たちの街をきれいにしていこう」という考えを持ってもらうことができたことが、今回の最も大きな収穫といえるでしょう。ネパールでの活動は今後も継続され、インドネシアでも本学と提携してボランティアの取り組みを始めるなど、本学とアジアを結ぶ国際協力のネットワークは着実に大きくなりつつあります。

(国際政治経済学研究所教授 塚本 俊也 記)



現地の高校生・大学生が延べ200名以上参加



ユースサミットではプレゼンもディスカッションも英語で実施



カトマンズ市内での清掃作業



歯の磨き方のデモンストレーション

青学オープンカレッジ春期講座

3月開講
申込受付中

2009年度よりスタートした「青学オープンカレッジ」(有料)では、学外団体の協力を得て行われる芸術関連講座をはじめとして、本学の特色を生かした講座を数多く開講しています。本年度の春期講座では文化、政治・外交、環境、外国語など、多彩な講座をご用意しました。在学生、保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

【芸術鑑賞講座】

劇団四季と『オペラ座の怪人』—その秘密を探る
四月花形歌舞伎鑑賞講座 協力：新橋演舞場
ジャズ、ここが楽しい、おもしろい 協力：BODY&SOUL

【美術館探訪講座】

ユベール・ロベール—時間の庭 協力：国立西洋美術館
尾形光琳の生涯と芸術 協力：根津美術館
茶会への招待—三井家の茶道具— 協力：三井記念美術館

【美を求めて】

美術のなかのキリスト教
フルートの歴史と、その音楽

【文学の世界】

伊藤左千夫文学の「農」
短歌を詠む
ブロンテ姉妹の生涯と作品

【国際政治を読む】

外交官が語る国際政治
東アジア安全保障情勢の新展開

【歴史を知る】

アルプス以北のルネッサンス—フランスを中心にして—

【現代の世界】

世界の中のフランス語
3DCG 映像制作と技法—アート、クラフト、サイエンスの融合—
すぐに役立つイタリア旅行会話

【人と社会】

暮らしと環境
正義について考えよう
国際社会における秩序と正義の実現に向けて

【ビジネス・経済・時事】

日本政治はどうなるのか—野田政権の課題 協力：毎日新聞社
2012年 米大統領選挙を読み解く

【青山の英語】

英作文—ネイティブならこう書く!
Let's Read Current News via Media English
English Through Media
アメリカTVと映画の世界へようこそ



劇団四季と『オペラ座の怪人』—その秘密を探る

文学部教授 佐久間 康夫

ミュージカル『オペラ座の怪人』は1986年にロンドンで初演され、世界27か国、145都市で上演が重ねられたメガヒット作です。2011年の秋には、25周年という節目を記念するコンサートもロンドンで開催されました。日本では、劇団四季による上演が早くも1988年に始まって、公演回数は6千回に迫る勢い입니다。

作曲家ロイド・ウェバーの経歴の中で『怪人』はどのような位置を占めているのか。原作を書いた小説家ルルーは他にどのような作品を書いたのか。2010年に開幕した『怪人』の続編『ラヴ・ネヴァー・ダイズ』の評価は? こうした視点から『怪人』の魅力に迫ってみたいと思います。

また、劇団四季の60年におよぶ歴史を振り返り、上演作品の傾向を分析し、日本最大規模の劇団が社会にはたしてきた役割についても考究します。

演劇は総合芸術といわれます。とくにミュージカルのような大規模な舞台芸術になると、作曲家、台本作者はもとより、観客の目に触れる役者、歌手、ダンサーばかりでなく、演出家をはじめとして、美術・音楽・照明・衣装の専門家等、関わる人間の数もエネルギーも膨大なものになります。

本年4月から文学部に「比較芸術学科」が開設されます。この新学科では、美術・音楽・演劇映像の3領域における古典的な名作の比較鑑賞に主眼点が置かれます。その意味で、受講生の皆様には、比較芸術学科の狙いの一端を、オープンカレッジの場でご紹介できると考えています。



青学オープンカレッジ事務局 東京都渋谷区渋谷4-4-25
お申し込み・お問い合わせ **TEL.03-3409-8501 FAX.03-3498-8361**
開室時間 9:30~11:30、12:30~17:00(日曜日・祝日を除く)

<http://www.j-aoyama.jp> **青学オープンカレッジ** 検索

※講座内容・日時の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。
※パンフレットご希望の方は、青学オープンカレッジ事務局までお問い合わせください。

卒業・進級および成績に関する日程

対象	日程	時間	方法
成績通知			
学部1~3年生	3/8(木)	13:30	学生ポータル「成績通知書」から閲覧してください。また卒業決定者以外の学部生の保証人住所宛に「2011年度成績通知書」を送付いたします。卒業決定者には学位授与式当日、本人に配布します。
学部4年生		10:30	
大学院生(博士前期課程・修士課程)		10:30	
専門職大学院生		13:30	
卒業・修了決定者発表			
学部生	3/8(木)	10:30	学生ポータルで発表します。
大学院生(理工学研究科)			
大学院生(理工学研究科以外)	3/8(木)	13:00	
専門職大学院生			研究科により発表日が異なるので、専門職大学院事務室で確認してください。
進級決定者・卒業見込決定者発表			
進級条件のある年次生(各学部の「授業要覧」を確認してください)	3/8(木)	13:30	学生ポータルで発表します。

2011年度 学位授与式・卒業礼拝

2011年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記の通り「学位授与式」、「卒業礼拝」を挙行政します。所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。

- 【学部】** 2012年3月24日(土) 青山学院記念館(大学体育館)
(午前の部) 10時30分開式(9時30分開場)
対象学部：経済学部、第二部経済学部、法学部、経営学部、第二部経営学部、国際政治経済学部
(午後の部) 13時30分開式(12時45分開場)
対象学部：文学部、第二部文学部、総合文化政策学部、理工学部、社会情報学部
- 【大学院】** 2012年3月24日(土) 青山学院講堂 16時開式(15時15分開場)
対象研究科：全研究科
- 【卒業礼拝】** 2012年3月24日(土) ガウチャー記念礼拝堂 9時~10時
説教：伊藤 悟 大学宗教部長 ※参加自由

春期休業期間中の窓口案内 対象期間 2/4(土)~3/31(土)

※備考に記載がある場合を除き、4/1(日)から平常通りとなります。
※変更となる可能性がありますので、大学ウェブサイトをご覧ください。

下記の日程は入学試験日のため、青山キャンパスへの入構が制限されます。学生証を提示の上、西門または東門より入構してください。
2/3(金)、2/4(土)、2/7(火)、2/10(金)、2/11(土)、2/13(月)、2/14(火)、2/15(水)、2/18(土)、2/19(日)、2/21(火)

部署	開室日程	取扱時間	備考
学長室	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	
庶務部	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	
学術研究推進部	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	
学務部教務課	2/22~3/29	月~金 9:00~17:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	2/4~2/21は閉室 3/8~3/14(日曜を除く)は19:00まで開室 3/30(金)より平常どおり
学務部教職課程課	3/8~3/31	月~金 9:00~16:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	2/4~3/7は閉室 3/8(木)は19:00まで開室(16:00~17:00は窓口休止) 3/24(土・学位授与式)は17:00、3/30(金)は18:30まで開室
学生部	2/22~3/29	月~金 9:00~19:00 (月~金 15:00~16:00は窓口休止) 土 9:00~11:30	2/4~2/21、3/24(土・学位授与式)は閉室 3/30(金)より平常どおり
進路・就職センター	2/4 2/22~3/31 2/6~2/21	月・水・火・木 9:30~16:00 (月・水・金 16:00~17:00は窓口休止) 土 9:30~12:00 月~金 11:00~17:00	資料室は火・木18:00まで、土13:00まで開室
図書館	2/4~3/30	月~土 9:00~19:00 (入学試験日は開館時間が異なりますので図書館ウェブサイトを確認してください)	2/5(日)、2/12(日)、3/20(火・祝)、3/25(日)は12:00~19:00 開館 3/31(土)は閉館 返却期限を厳守してください 閉館中の本の返却は正面入口脇のブックポストに入れてください
大学院事務室	3/8~3/31	月~金 9:00~18:30 土 9:00~13:00 (11:30~12:30窓口休止)	2/4~3/7は閉室
専門職大学院事務室	2/4~3/31	月~金 9:00~16:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30窓口休止)	
広報入試センター	2/22~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	2/4~2/21は閉室
総合研究所事務室	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	
情報科学研究センター	2/4~3/31	月~土 9:00~19:00	年度未処理のためシステム利用停止日があります 入学試験日・年度未処理日は、パソコン室・システムサポート室は閉室 詳細は情報科学研究センターウェブサイト・掲示板で確認してください
国際交流センター	3/1~3/31	月~金 9:00~16:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	2/4~2/29は閉室
外国語ラボラトリー	3/1~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	2/4~2/29は閉室 施設開室日は左記と異なりますので、外国語ラボラトリーウェブサイトを確認してください
学生相談センター	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	火・金の夜間開室は4/10(火)から再開します
保健管理センター	2/4~3/31	月~金 9:00~16:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	救急処置は月~金17:00まで、土13:00まで取り扱います
財務部 大学青山経理グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	現金は月~金16:00まで、土11:00まで取り扱います
財務部 本部財務グループ・本部資金グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	
宗教センター	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	4/7(土)より平常通り
資料センター	2/4~3/31	火 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	資料閲覧希望の場合は、3日前までに連絡してください

ユニット	グループ	開室日程	取扱時間	備考
学生支援ユニット	学務グループ	2/22~3/31	月~金 9:00~16:00 (月~金 11:30~12:30は窓口休止) 土 9:00~11:30	2/4~2/21、3/24(土・学位授与式)、4/2(月・入学式)は閉室 ただし、2/4(土)、2/6(月)、2/16(木)、2/17(金)は追試験業務のみ、取り扱います
	進路グループ			
	学生生活グループ			
	国際交流グループ			
	健康管理グループ(保健管理センター)			
教育・学習支援ユニット	授業支援グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00 (11:30~12:30は窓口休止)	
研究支援ユニット	情報教育支援グループ(情報科学研究センター)	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	年度未処理のため、利用停止期間があります 詳細は情報科学研究センターウェブサイト・掲示板で確認してください
	図書グループ(万代記念図書館)	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	3/5~3/7は蔵書点検のため閉館 3/31(土)は通常開館(9:00~17:00)
施設ユニット	メディアライブラリーグループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	詳細はメディアライブラリーウェブサイト・掲示板で確認してください
	研究支援グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	
庶務ユニット	企画・渉外グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	
施設ユニット	庶務グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	
	施設グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	
財務部	大学相模原経理グループ	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	現金は月~金16:00まで、土11:00まで取り扱います
宗教センター	宗教センター	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 土 9:00~13:00	3/24(土・学位授与式)、4/2(月・入学式)は閉室 4/7(土)より平常通り
	資料センター	2/4~3/31	月~金 9:00~17:00 (11:30~12:30は窓口休止)	資料閲覧希望の場合は、3日前までに連絡してください

2012年度 学事暦(学部)

※ 大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。『大学院要覧』等を参照してください。

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は各学部・学科ごとに行います。
日時・場所の詳細は1月中旬以降に学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期		後期	
4/2(月)～6(金)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断	9/21(金)	後期授業開始
4/2(月)	入学式	10/6(土)～7(日)	相模原祭期間(6(土)は相模原キャンパスのみ休講)
4/7(土)	前期授業開始	10/8(月)	授業実施日(体育の日)
4/9(月)～14(土)	新入生歓迎礼拝(相模原キャンパス)	10/15(月)～20(土)	チャペル・ウィーク(後期)
4/9(月)	イースター礼拝(相模原・青山キャンパス)	11/2(金)～4(日)	青山祭期間(2(金)、3(土)は両キャンパス休講)
4/10(火)	イースター礼拝(第二部)	11/13(火)	創立記念礼拝(第二部)
4/16(月)	青山キャンパス 第一部所属学生 履修登録最終日		授業実施日(創立記念日)
	相模原キャンパス所属学生 履修登録最終日	11/16(金)	創立記念礼拝(相模原・青山キャンパス)
4/17(火)	青山キャンパス第二部所属学生 履修登録最終日	11/30(金)	クリスマスツリー点火祭
4/30(月)	授業実施日(昭和の日)	12/18(火)	クリスマス礼拝(青山キャンパス、第二部)
5/21(月)～26(土)	チャペル・ウィーク(前期)	12/20(木)	クリスマス礼拝(相模原キャンパス)
5/24(木)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝	12/25(火)～2013年1/5(土)	冬期休業期間
5/28(月)	ペンテコステ礼拝(相模原・青山キャンパス)	2013年1/7(月)	後期授業再開
5/29(火)	ペンテコステ礼拝(第二部)	1/15(火)～17(木)	補講日(第一部、第二部とも)
6/16(土)	アドバイザーグループデー	1/18(金)～20(日)	大学入試センター試験および同準備日 (18(金)、19(土)は青山キャンパスのみ休講)
7/17(火)・18(水)	補講日(第一、第二部とも)	1/21(月)～26(土)	補講日(第二部のみ)
7/23(月)～28(土)	補講日(第二部のみ)	1/21(月)～2/2(土)	後期定期試験期間
7/23(月)～8/4(土)	前期定期試験期間	3/23(土)	学位授与式 卒業礼拝
8/6(月)～8(水)	清里サマーカレッジ		
8/6(月)～9/20(木)	夏期休業期間		
9/29(土)	9月学位授与式		

※ 緑字は、宗教行事です。

進路・就職関係のお知らせ

2～3月の進路支援行事

行事	対象学年	日程
業界研究企業セミナー	学部3年生・院1年生	2月1日(水)～3日(金)
卒業生による模擬面接	学部3年生・院1年生	2月～3月上旬
公務員春期集中講座	公務員志望者	3月下旬
ミニガイダンス	全学年	毎週

相模原キャンパス

行事	対象学年	日程
学内企業説明会	学部3年生・院1年生	2月6日(月)～9日(木)

各種行事は追加・変更の可能性がありますので、詳細は「Web Ash」等にて必ず確認してください。

青山キャンパスの個別相談について

進路・就職センター(青山キャンパス)では、待ち時間を少なくするため、平日13時以降の個別相談を当日予約制としました。相談希望当日に、事務室受付にて学生証提示の上、予約してください。予約は9:30から受け付けます。(電話での予約および予約状況の照会は行いません。)

なお、午前の部(月～金/9:30～12:30、土/9:30～11:30)は予約不要です。

予約ラウンド(月～金)

相談開始時刻(相談時間は、原則30分です)

予約①	13:00～	○相談開始時刻を10分過ぎても来室しない場合には、キャンセル待ちの方を優先とします。 ○相談員の指名は、卒業年次生(学部4年生、大学院2年生)のみ可能です。
予約②	14:00～	
予約③	15:00～	
月・水・金のみ 予約④	17:00～	
月・水・金のみ 予約⑤	17:40～	
月・水・金のみ 予約⑥	18:20～	

進路グループ(相模原キャンパス)での個別相談は開室時間中随時受け付けます。

卒業・修了の決まったみなさんへ

卒業・修了後の進路報告について

学長 仙波 憲一 / 就職部長 懸田 豊

青山学院大学では、みなさんに修学後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業・修了の決定した学部4年生と修士課程修了生全員に提出していただきます。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学

進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)……Web Ashで入力、進路・就職センターへ「進路届」を提出
相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科、社会情報学部、社会情報学研究科社会情報学コース)……Web Ashで入力、学生支援ユニット進路グループへ「進路届」を提出

外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。

民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せて提出をお願いいたします。

みなさんのこれからの活躍を、こころからお祈りいたします。

※ 青山キャンパス所属の大学院生については、大学院事務室・専門職大学院事務室にお問い合わせください。ご協力をお願いいたします。

INFORMATION

2011年度 ペアレンツウィークエンド実施状況報告

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として、在学生の保護者の皆様に大学の近況や学生の皆さんの成績・進路・就職などのご相談やご意見をお伺いするために、経験豊かな大学教職員が協力して説明会や個別面談を通して保護者の皆様により一層大学のことを知っていただくイベントです。今年度は震災のために青山学院大学も大きな影響を受けての開催となりました。

① キャンパス開催ペアレンツウィークエンド

【全学部1年生の保護者対象】 1年生の保護者の皆様を対象としたペアレンツウィークエンドを6月25日(土)相模原キャンパスで開催いたしました。アリーナで学長・副学長によるキャンパス移行延期についての全体説明会を行い、その後、各学部へ分かれて学業・進路・学生生活について説明会や個別面談を行いました。パイプオルガンコンサートや吹奏楽バンドワリング部のアトラクションなどの催事、キャンパスツアーによって相模原キャンパスのすばらしい環境を身近に感じていただけたと思います。

【学部別開催】 主に2、3年生の保護者の皆様を対象としたペアレンツウィークエンドは、経済学部、総合文化政策学部は6月4日(土)、法学部・経営学部、社会情報学部(相模原キャンパス)は6月11日(土)、教育人間科学部・文学部・国際政治経済学部は6月18日(土)、理工学部(相模原キャンパス)は7月2日(土)に開催いたしました。全体説明会・ティータイムの後、個別面談会場では進路・就職について熱心に相談される保護者の皆様が多数いらっしゃったのが印象的でした。恒例のパイプオルガンコンサート、新企画として青山キャンパスでもキャンパスツアーを実施し、保護者の皆様もご満足いただけたようです。

② 地区開催ペアレンツウィークエンド

7月10日(日)青森・宇都宮・甲府会場を皮切りに、全国20会場において、地区ペアレンツウィークエンドを順次実施いたしました(※2010年度、口蹄疫問題で中止とした宮崎会場も実施しました)。地区会場では大学代表者による挨拶や、大学の近況報告に引き続き、各部署の担当者より学業成績、就職、学生生活についての説明をいたしました。その後の昼食会は校友会の皆様(※校友参加会場のみ)や大学教職員との懇談の場として企画されています。個別面談会場では、学部別開催会場と変わらないほど熱心に相談される保護者の方が大変多かったようです。

本年度もペアレンツウィークエンドの全日程を無事終了することができました。ご参加いただいた保護者の皆様に深く感謝いたします。

キャンパス開催

対象学部	開催日	開催キャンパス
全学部1年生	6月25日(土)	相模原キャンパス

キャンパス開催(学部別)

対象学部	開催日	開催キャンパス
経済学部・経済学部第二部	6月4日(土)	青山キャンパス
総合文化政策学部		
法学部	6月11日(土)	青山キャンパス
経営学部・経営学部第二部		
文学部・文学部第二部	6月18日(土)	青山キャンパス
教育人間科学部		
国際政治経済学部	7月2日(土)	相模原キャンパス
理工学部		
社会情報学部	6月11日(土)	

地区開催

対象道府県	開催都市	開催日	会場
青森	青森	7月10日(日)	青森国際ホテル
栃木	宇都宮	7月10日(日)	宇都宮東武ホテルグランデ
山梨	甲府	7月10日(日)	常盤ホテル
徳島	徳島	7月16日(土)	ホテルクレメント徳島
香川	高松	7月17日(日)	全日空ホテルクレメント高松
兵庫	神戸	7月17日(日)	ANAクラウンプラザホテル神戸
宮城	仙台	7月23日(土)	ホテルメトロポリタン仙台
福岡	福岡	7月23日(土)	ソラリア西鉄ホテル
沖縄	那覇	7月30日(土)	パシフィックホテル沖縄
愛知	名古屋	7月31日(日)	キャッスルプラザ
宮崎	宮崎	8月6日(土)	ホテルスカイタワー
群馬	高崎	8月7日(日)	ホテルメトロポリタン高崎
鳥取	米子	8月20日(土)	米子全日空ホテル
岡山	岡山	8月20日(土)	ホテルグランヴィア岡山
山口	周南	8月21日(日)	ホテルサンルート徳山
富山	高岡	8月27日(土)	ホテルニューオータニ高岡
静岡	静岡	8月27日(土)	ホテルアソシア静岡
熊本	熊本	8月27日(土)	熊本全日空ホテルニュースカイ
北海道	函館	9月3日(土)	ロワジュールホテル函館
	札幌	9月4日(日)	ニューオータニイン札幌



▲全学部1年生の保護者対象会場

▲地区会場(札幌)

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。

主要活動予定(2012年1月～2月)

アイススケート部(フィギュア部門) 第84回日本学生氷上選手権大会(1月)
航空部 第52回全日本学生グライダー競技選手権記念大会(3月)
硬式庭球部 平成23年度関東学生新進テニス選手権大会予選(2月)
水泳部 第7回東京都新春短水路水泳競技大会(1月) 東京都記録会(1月)
バスケットボール部(男子) 第87回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権(1月)
フェンシング部 第19回JOCジュニアオリンピックカップ大会(1月)
陸上競技部(長距離部門) 第88回東京箱根間往復大学駅伝競走(1月)
グリーンハーモニー合唱団 グリーンハーモニー合唱団フェアウェルコンサート(2月)
チェックメイト部 第26回全国オール学生将棋選手権(個人戦)(1月)
吹奏楽(バンドワリング部) 第37回東京都大学吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト(1月)

主要活動報告(2011年10月～12月)

アイススケート部(ホッケー部門) 関東大学アイスホッケーリーグ DIVII優勝 1部昇格

居合道部 第44回東日本学生居合道大会 団体戦優勝、玉光弘和 優勝、内野綾吾 準優勝

第26回全日本学生居合道大会 団体ベスト8、玉光弘和 個人ベスト8
第16回関東甲信越居合道大会 敢闘賞 2段2名、初段4名、段外1名

空手道部 第55回全日本大学空手道選手権大会 女子形3位

拳法部 日本拳法第5回東日本大学女子選手権 3位

日本拳法第4回東日本大学形選手権二人形の部

熊谷裕樹 正田梨於奈 優勝

硬式野球部 東都大学軟式野球連盟秋季リーグ 2位

少林寺拳法部 第45回少林寺拳法全日本学生大会女子三段以上の部

後藤香子 山上悠紀 5位

バスケットボール部(男子) 第63回全日本大学バスケットボール選手権大会 優勝

第87回関東大学バスケットボールリーグ戦 優勝

バドミントン部(女子) 全日本学生バドミントン選手権大会 ベスト8

バレーボール部(女子) 2011年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦 5位

パワーリフティング部 第91回関東学生パワーリフティング選手権大会 3位

フェンシング部 第61回全日本学生個人選手権大会 海部夏子 12位

ラグビー部 関東大学ラグビー対抗戦Aグループ公式戦 6位

陸上競技部(長距離部門) 第43回全日本大学駅伝 9位

第23回 出雲全日本大学選抜駅伝競走 10位

レスリング部 2011全日本学生選手権グレコローマン96kg級 赤嶺希 2位

Aogaku Lecture ④

国際平和協力論Ⅱ —変遷する国際紛争—



青井 千由紀
国際政治経済学部 教授

本講座は、今日の平和協力活動がどのような紛争に対処しようとしているのかについて、理論的・歴史的に考察することを目的としています。

そもそも「国際平和協力」とはいったい何のことをさすのでしょうか。前期の授業(国際平和協力論I)ではこの言葉の意味を考えることから始めます。そもそも、欧米をはじめとする海外の大学ではこのような講座は存在しませんし、平和協力という独立した学問領域も存在しません。日本政府の訳では国際平和協力はInternational peace cooperationとなりますが、極めて日本的な言葉であることから解説を始めます。日本では、国際平和協力とは大まかに言って国連平和活動(に対する支援、参加)、国際緊急援助、人道支援、開発援助、その他の国際機構や非政府組織がかかわる活動をさしますが、当然のことながら、各国の活動範囲には違いがあります。日本の場合は、国際平和活動参加の歴史も浅く、活動範囲も限られている傾向があります。この授業では、国際平和協力を、「国際平和と安全の維持のために諸国家が国際機構、条約、随時取りきめなどを通

じて共同に行動すること」と定義し、安全保障政策の一環として概念化しています。そして、その範疇の国際活動の理論と実践を問題領域ごとに解説していきます。国際情勢を踏まえて、日本としての取り組みの特徴を理解することが重要であると思います。

本講座が特に重要視しているのは、国際活動に関して国際水準の学力を学生に達成させることです。一般に国際平和協力を学問的に考えていく上で、集団安全保障、平和維持活動といった国際活動を理解するための国際政治、法枠組みに関する基礎知識、さらには国際紛争に関する基礎知識が必要となります。いずれも国際政治学においてはもっとも重要な分野となり、数多くの理論にまたがる重層的な視点が必要となります。

本講座で取り扱うのは、このうち国際紛争に関する基礎知識です。後期を通じて考察するのは、前期で勉強する国際活動の変遷に鑑

み、国際紛争は果たして変遷しているのかという問題です。今日では、テレビやインターネットで世界各地の紛争やテロの映像が簡単に目に入るようになり、民族紛争、宗教戦争といった項目が高校生の教科書にも載るようになりまし

た。多くの人々は、こういった紛争を理解するのに、民族や宗教などのアイデンティティの違いに着目するようになっています。また、紛争の形態や方法など表面的には変遷しているかもしれませんが、すべての紛争は政治的なものであり、支配をめぐる戦われる点において、歴史を通じてその本質は変遷していないことがこの授業の中心的な考察点となります。そして、反乱やテロリズムといった政治暴力の特質と歴史、内戦の原因に関する諸理論も取り扱います。また、国際活動とは国力と人的資源の第三国への投入に他ならないのですから、ここから派生する政治・社会と軍の関係性を分析対象とする政・民軍関係や包括的アプローチも学習の課題としています。また、海外で第一線で活躍する研究者や実務家の招聘講義も1回は導入しています。

毎年、私のもとにも将来、博士課程に進学し国際政治の研究者になりたいという学生や、国際機関に勤めたいという学生が数名は相談に来ます。本講座では、修士課程からすでに欧米のトップレベルの大学で国際関係・政治学を就学する準備ができるようにすることを具体的な到達点としています。こういった努力を惜しまない学生の進路をできるだけ寄り添いものとするための助力になりたいと日々念じています。



INFORMATION

2012年度 大学・大学院学費納付について

《学部生》

1.学費振込依頼書発行・納付期限等について

(1)学費振込依頼書は、原則として保証人宛(事前に所定の手続をされた場合のみ学生宛)に送付します。

①前期分・後期分・前後期分一括納入の3種類の振込み依頼書を【4月上旬】に送付します。

納入期限は、前期分・前後期分一括納入が【4月下旬】、後期分が【9月下旬】です。期限内に納付願います。なお、以下②に該当する方以外には、後期分の振込依頼書は改めて送付しません。4月上旬に送付される後期分の振込依頼書を保管の上、振込手続をお願いいたします。

②教育職員免許状取得の希望、各種諸資格取得の希望を申請された方は、教職課程・諸資格課程料等が加算されるため、後期分の納入必要額が変更となります。対象の方には、【7月上旬】に変更後の後期分の振込依頼書を送付しますので、変更後の振込依頼書を利用して、振込手続をお願いいたします。

(2)学費振込依頼書に記載された銀行の本・支店窓口での振込みは、振込手数料が無料です。ATM・インターネットバンキング

およびその他の金融機関からの振込みは、振込手数料が必要となる場合があります。

2.休学・留年・編入学・転部・転学科・再入学をされた学生の学費は、下記の表と異なる場合があります。詳細は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

3.4年次で留年した学生の前期分学費振込依頼書は、5月中旬発送予定【納付期限6月上旬】です。後期分は、10月中旬発送予定【納付期限11月中旬】です。

4.教育ローンについて

本学では、銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細は、AGUニュース第61号(3月下旬発行予定)に掲載します。

《大学院生・専門職大学院生》

学費の納付期限等は、『大学院要覧』等を参照してください。

2012年度 大学学費一覧表 (入学年度別)

単位:円

年度 学部・学科	2011年度入学生		2010年度入学生		2009年度入学生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼間部	英米文学科	600,700	600,700	600,700	600,700	
	フランス文学科	602,000	602,000	602,000	602,000	
	日本文学科	601,500	601,500	601,500	601,500	
	史学科	612,500	602,500	602,500	602,500	
	教育学科	606,500	601,500	601,500	601,500	
	心理学科	633,500	391,500	633,500	391,500	391,500
	経済学部	612,500	612,500	612,500	612,500	
	法学部	613,500	613,500	613,500	613,500	
	経営学部	613,500	613,500	613,500	613,500	
	国際政治経済学部	623,500	623,500	623,500	623,500	
	総合文化政策学部	633,500	633,500	633,500	623,500	
	理工学部	921,500	565,500	921,500	565,500	921,500
社会情報学部	775,500	478,500	775,500	478,500	775,500	
夜間部	英米文学科		345,200	246,000	345,200	246,000

編入学・転部・転学部・転学科・再入学・留年等は除く

ご相談・お問い合わせ先

- ① 保証人・学生本人の住所変更 青山キャンパス 学生部 厚生課(03-3409-7945)
相模原キャンパス 学生生活グループ(042-759-6004)
- ② 学費延納・分納の申請、学費振込依頼書の再発行 青山キャンパス 学生部 学生課(03-3409-7835)
相模原キャンパス 学生生活グループ(042-759-6004)
- ③ 休学・退学の申請 青山キャンパス 学務部 教務課(03-3409-7830)
相模原キャンパス 学務グループ(042-759-6003)
- ④ 振込手続・学費一覧に関する問合せ 財務部 本部資金グループ(03-3409-6479)

※①～③について、青山キャンパス所属の大学院生は大学院事務室(03-3409-7831)、専門職大学院生は専門職大学院事務室(03-3409-8025)へお問い合わせください。
※春期休業期間(2/4～3/31)の窓口開室日程は15ページをご覧ください。

2012年度 大学院学費一覧表 (入学年度別)

単位:円

年度 研究科・専攻	2011年度入学生		2010年度入学生	
	前期	後期	前期	後期
文学(英米文) 博前・博後	322,700		272,700	
文学(フランス文) 博前・博後	324,000		274,000	
文学(日本文) 博前・博後	323,500		273,500	
文学(史) 博前・博後	324,500		274,500	
教育人間科学(教育) 博前・博後	323,500	257,500	273,500	257,500
教育人間科学(心理) 博前・博後	361,500		311,500	
経済学 博前・博後	340,500		274,500	
法学(ビジネス法務を除く) 博前・博後	325,500		275,500	
法学(ビジネス法務) 修士2年制・博後	415,500		365,500	
法学(ビジネス法務) 修士3年制	338,000	180,000	338,000	180,000
経営学 博前・博後	341,500		291,500	
国際政治経済学 修士・博後	465,500	257,500	365,500	257,500
総合文化政策学 修士2年制	465,500			
総合文化政策学 修士3年制	388,000	180,000	388,000	180,000
総合文化政策学 一貫制博士	365,500	257,500	365,500	257,500
理工学 博前	560,000	373,000		
社会情報学 博前	498,000	315,000		
理工学 博後	474,500		374,500	
社会情報学 博後	440,500		365,500	
国際マネジメント 専門職2年制	656,000	378,000		
国際マネジメント 一貫制博士	465,500	257,500	465,500	257,500
法務 専門職	708,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション 専門職	807,000	600,000		
会計プロフェッション 博後	394,500	257,500	344,500	257,500

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程 ※留年・3年次編入学は除く

安藤 孝四郎 氏を次期青山学院理事長に選任



学校法人青山学院は、12月14日(水)開催の理事会において、2012年3月31日をもって任期満了により退任となる半田正夫理事長の後任として、安藤孝四郎理事長を次期学校法人青山学院理事長に選任いたしました。任期は2012年4月1日から2015年11月24日(理事任期に同じ)まで。

■経歴

1959年 青山学院大学経済学部卒業後、株式会社電通入社
 1987年～1989年 同社取締役
 1989年～1995年 同社常務取締役
 1995年～1997年 同社常任監査役
 1997年～2002年 株式会社インタービジョン代表取締役社長
 1996年～2007年 学校法人青山学院評議員
 1999年～2007年 学校法人青山学院理事
 2004年～2007年 青山学院校友会会長
 2011年～ 学校法人青山学院理事、評議員

2011年度「青山学院学術褒賞」受賞者決定

「青山学院学術褒賞」は、専門分野の研究において学術上顕著な業績を発表した本法人の専任教員に授与される賞です。2011年度は大学では以下の3名が受賞しました。

- 文学部史学科 小林 和幸教授 「谷 干城 憂国の明治人」(中央公論新社 2011)
- 理工学部情報テクノロジー学科 山口 博明教授
非ホロノミックな拘束を有する車輪型移動機構の制御における微分幾何学的アプローチとその実験的検証
- 国際政治経済学部国際コミュニケーション学科 Evanoff, R.J. 教授
Bioregionalism and Global Ethics: A Transactional Approach to Achieving Ecological Sustainability, Social Justice, and Human Well-being (Routledge 2011)

「東日本大震災被災学生修学支援給付奨学金」の中間報告

募金事務局では東日本大震災及び福島原発事故で被災した地方の出身である本学学生の修学支援のため、奨学金募金を開始いたしました。おかげさまで、12月末現在、約2400万円のご寄付が集まっております。一方、被災を受けた大学等の学生は約350名を超えております。学費の減免措置とは別に、一人5万円を給付奨学金として支援をすることとし、被災した学生に案内をしております。このような趣旨をご理解いただき、引き続きのご支援をお願いする次第でございます。

TEL. 03-3409-6208 FAX. 03-3409-3890

News Index 2011.10～12

2011年10月～12月の大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2011年10月

- 徐若安さん(理工学研究科博士前期課程2年)が、「ANQ Congress 2011」において「Best Poster Award」を受賞
- フェンシング部の海部夏子選手が「第63回関東学生選手権大会」ベスト16で全国大会出場へ、小島彩里衣選手が「第11回北岡杯」二種目で優勝
- 陸上競技部(長距離ブロック)の山崎雄大選手が「第36回高島平・日刊スポーツロードレース大会(20kmの部)男子」で二連覇

2011年11月

- 陸上競技部(短距離ブロック)女子チームが、「第95回日本選手権リレー競技大会」で入賞
- AGU SURF LIFESAVING CLUB愛好会の森田一輝選手と森山瞳選手が、「第26回全日本ライフセービング選手権大会」個人種目で優勝
- 東日本大震災ボランティア支援募金 集計結果報告(最終)および2011年度ボランティア活動収支報告

2011年12月

- 「公共選択学会第14回学生の集い」において、経済学部中村まづるゼミの学生2チームの論文が、「最優秀賞」と「優秀賞」を受賞
- 「ニフティWebコンテスト2011」において、理工学部情報テクノロジー学科と社会情報学部の2チームが、「アイデア賞 銀賞」と「ビジネス賞 銀賞」を受賞
- 米国CFA協会が主催する企業分析力のコンテスト「Research Challenge 2011」内決勝大会において、本学チームが初優勝

Club&Circle 10 フェンシング部

まるで家族のような、かけがえのない仲間と出会えます

男子13名、女子11名で活動しています。日々の練習内容は、基礎の足さばきである「フットワーク」、技術的な訓練「レッスン」、そして試合形式の「ファイティング」の3つが軸となっています。春と夏の合宿や東北学院大学・学習院大学との定期戦も行っています。

2011年度は女子部員2名が全日本選手権大会の個人の部に出場するなど、優秀な戦績を残すことができ、これを弾みに、2012年度はチームとして関東学生フェンシングリーグ戦の2部昇格を目指しています。団体戦はメンバーの応援にも熱が入って、一戦一戦が心に残る試合となっています。

フェンシング部では、先輩・後輩の上下関係や礼儀を大切にしながらも、楽しくアットホームな活動を大切にしています。私自身、苦楽をともにした仲間や後輩、さまざまな指導をしてくださる先輩方は、家族と同じくらいかけがえのない存在だと思っています。特に先輩は卒業後も練習に参加して下さる方が多く、いろいろな話が聞けて社会勉強にもなります。選手としてだけでなく、人として成長するためにも最高の環境だと思っています。

(主将：総合文化政策学部総合文化政策学科3年 高見澤 礼)



関東学生選手権



2011年OB杯にて

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2012青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
 - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ



発行元：青山学院 本部広報部
TEL. 03-3409-6578

●2012年1月27日発行●